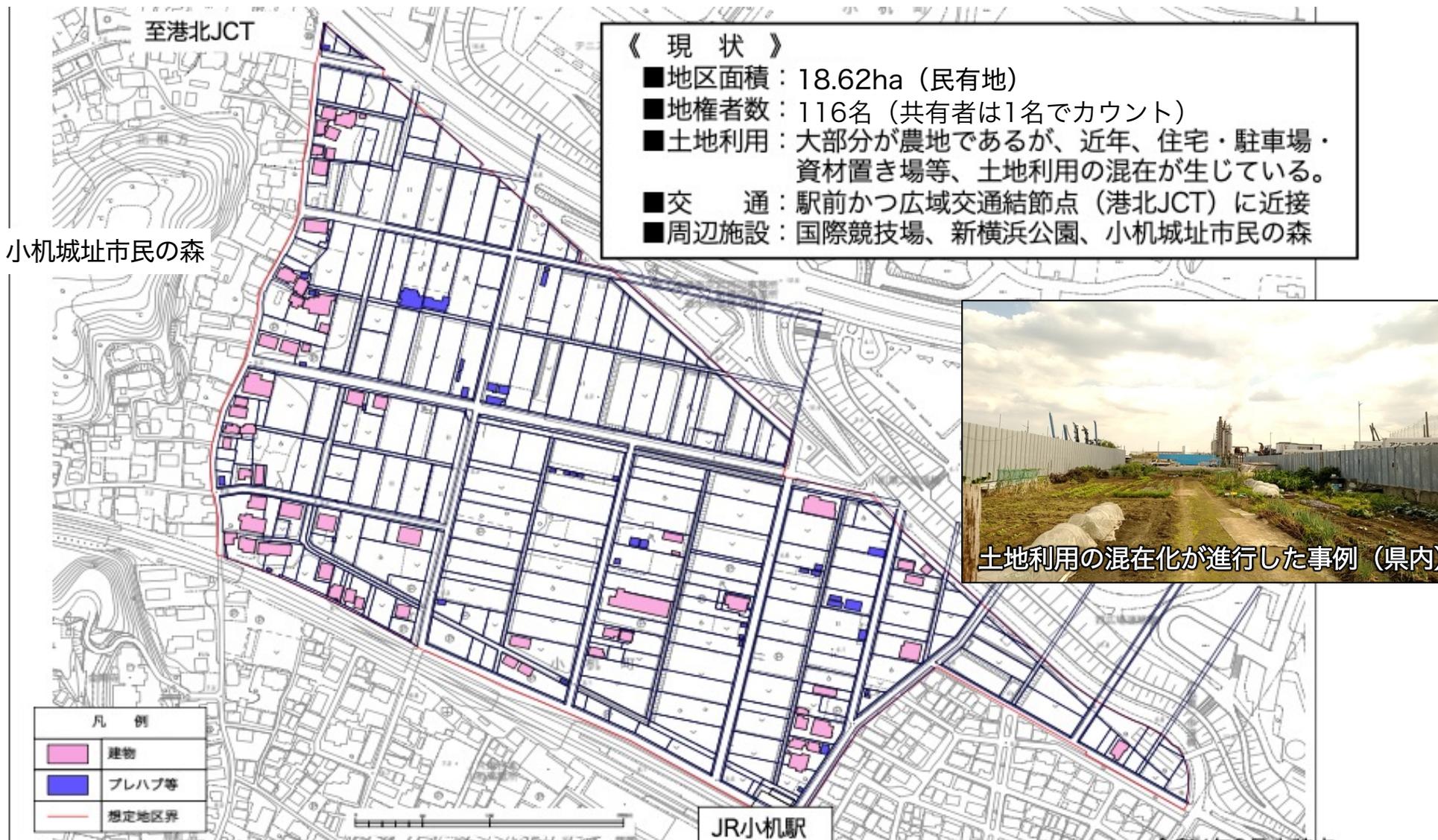


## ①小机駅北口地区の現状と課題

小机駅北口地区（以下、「本地区」）は、農地の宅地化が進み土地利用の混在が生じており、このまま何も手を打たないと更に虫食いの的に宅地化が進行し、農地の荒廃や景観の悪化等が生じてしまうことが懸念されます。



### ①立地特性

#### 交通アクセス：駅前かつ広域交通拠点に近接

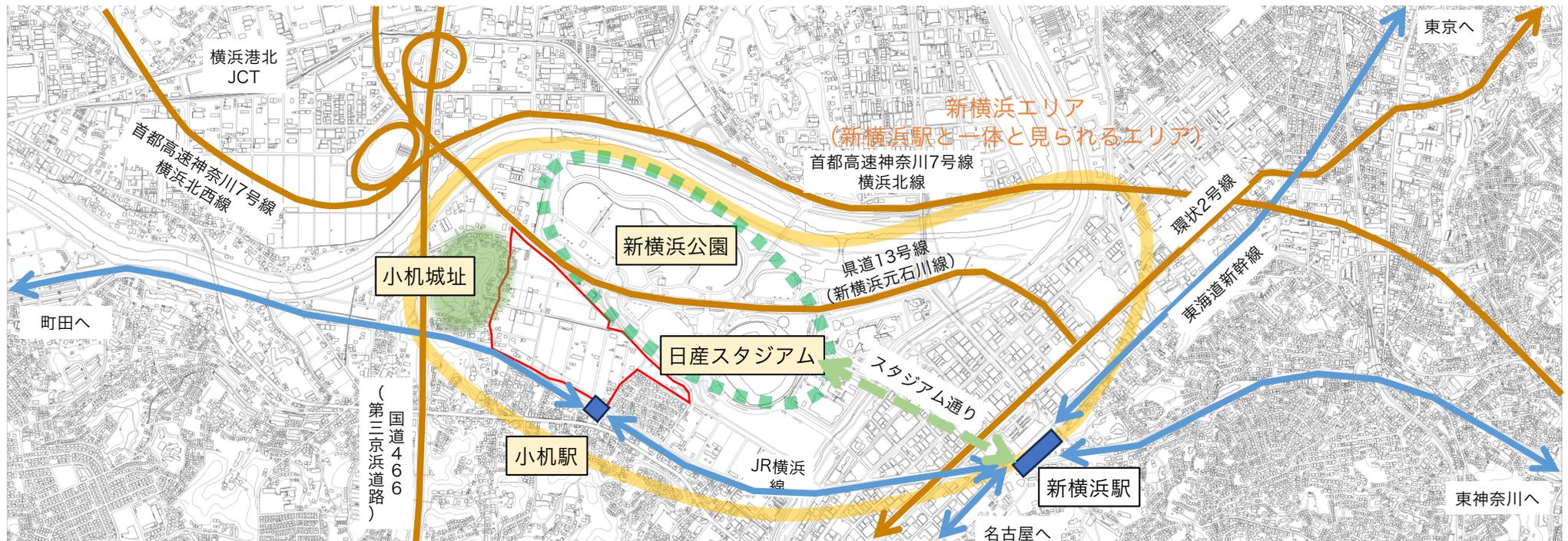
- JR横浜線「小机駅」隣接
- 東海道新幹線／JR横浜線／横浜市営地下鉄／相鉄・東急新横浜線「新横浜駅」から1駅
- 都市計画道路新横浜元石川線に隣接
- 第三京浜道路／横浜環状線 港北JCT至近

#### 周辺施設：後背地に人の集まる施設等が立地

- 横浜国際総合競技場（日産スタジアム）・新横浜公園
- 大規模商業施設（IKEA港北、ららぽーと横浜、コーナン等）
- 小机城址まつり

#### 地域固有の資源

- 横浜国際総合競技場を本拠地とする「横浜・F・マリノス」および定期的に当地区を訪れるサポーターが存在
- 小机城址市民の森



### ② 行政計画における本地区の位置付け

**(1) 横浜市中期計画 2022-2025** \*小机駅北口地区は新横浜都心の一部として位置付けられています。

経済活性化や脱炭素化を見据えた持続的な成長に向けて、神奈川東部方面線の整備による交通利便性の向上を最大限生かして人や企業を呼び込み、都心機能と周辺の自然環境や居住機能、集客施設等の相乗効果を発揮するまちづくりを進める

**(2) 横浜国際港都建設計画 都市計画区域の整備、開発及び保全の方針**

広域交通ターミナルとしての利便性を生かし、広域的な業務・商業機能の集積のほか、医療・福祉機能や横浜国際総合競技場などの施設立地を生かした交流機能など、多様な機能を集積、居住機能を強化し、高密度を基本としたまちづくりを推進

**(3) 横浜市都市計画マスタープラン（平成25年3月）**

新横浜公園や、小机城址市民の森などの歴史や豊かな自然環境を生かした交流機能を充実すると共に、駅前広場の整備など、駅前にふさわしい土地利用を検討し、広域交通ターミナルとしての利便性を生かして業務・商業等多様で広域的な機能集積を図る

**(4) 横浜市都市計画マスタープラン 港北区プラン（平成27年3月）**

広域交通ネットワークの拠点としての特性を生かして業務、商業、交流、観光機能、都市型住宅等、都心として多様な機能を集積し、農地保全等と調和のとれた土地利用を目指す。面的整備手法の導入等により駅前整備にあわせて、横浜国際総合競技場の最寄り駅として、また、地域の生活拠点としての機能強化する

**(5) 新横浜都心整備基本構想（平成11年6月）**

公園や市民の森と駅との回遊性確保を進めると共に、横浜線北側の農業エリアの土地利用検討、幹線道路整備等を総合的に推進し、便利で安全・安心な活力ある街を目指す

**(6) 都市計画マスタープラン改定等検討小委員会（第2回）**

新たな産業や最先端技術の拠点形成を推進することで、さらなる企業・業務機能の集積、職住近接を実現し、都市空間の質の向上、多世代の生活を支える基盤整備を行う

### ② 行政計画における本地区の位置付け

#### (7) 横浜市水と緑の基本計画（平成28年6月）

本地区は緑の10大拠点の1つ「都田・鴨井東本郷・菅田羽沢周辺」に位置しており、本地区周辺では、小机城址市民の森や新横浜公園を緑の拠点として、優先的に保全・活用していく方針である。また、新横浜公園周辺は横浜市都市計画マスタープラン港北区プランによって水と緑の拠点として位置付けられており、周辺の緑や水辺などの資源を活かした一体的な保全・活用が求められている。



### ② 行政計画における本地区の位置付け

#### (8) 横浜市港北区バリアフリー基本構想（令和5年11月）

高齢者、障害者等の円滑な移動を確保することにより、すべての人にとって利用しやすい公共交通機関、道路、建築物等の整備を実現を目指す。各施設設置管理者は、移動等円滑化基準の考え方を十分認識の上、できることから既存施設のバリアフリー化に努める。



※下記はあくまでもたたき台です。今後皆様と協議の上検討します。

## ⑤ 開発の方向性 (4) 本地区における開発コンセプト (たたき台/今後の検討事項)

### スポーツと健康が楽しめる新横浜エリアの新たな玄関口「小机」

#### ①新横浜エリアの回遊性が活性化し、交流が生まれ、まちが賑わう

本地区のまちづくりを行うことにより、地域固有の資源を繋ぎ、回遊性を高めるとともに、誰もが健康・福祉・スポーツを通して日常的に交流できる仕掛けをつくり、地域内外が賑わう空間を形成します。

#### ②地域の生活利便性や災害安全性が向上し、安心して暮らせる

地区内及び周辺に暮らす方の日常的な買い物へのニーズを満たし、生活サービス水準を向上します。また、地域の災害を低減するまちづくりを進めるとともに、発災時に住民と誘致企業とが協力し合える地域づくりを目指します。

#### ③地域の生物多様性を維持し、自然との共生を感じられるライフスタイルを実現する

地区に隣接する小机城址や新横浜公園、鶴見川などの水や緑との連続性がある潤い豊かな街を目指し、民地や建物、公共空間を積極的に緑化することで、横浜市の脱炭素化に寄与するまちづくりを推進します。

SDGsへの取組

17 パートナリシップで目標を達成しよう



11 住み続けられるまちづくりを



15 陸の豊かさも守ろう

